

【 銚 田 市 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）等を踏まえ、銚田市では目指す学びの姿を「向上心をもち、課題解決のために自分の力で主体的に取り組む子」とする。具体的には、1人1台端末・クラウドツールやデジタル教材などを活用し、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて、いつでもどこでも学ぶことができ、ダイバーシティ社会で一人ひとりの能力を十分に発揮できること。多様な学び且つ主体的・対話的で深い学びができることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

銚田市では、これまで1人1台端末の整備と共に、校内などの通信ネットワークの整備を進めてきた。また、ICT指導員の助言の基下、授業での活用も徐々に進んできています。ファイル共有により友達の考えを参照したり、児童生徒同士で意見交換したりしながら問題解決に取り組む事例も見られる。一方で、教職員のICTを活用した指導する能力については、教職員の意識やスキルにおいて、学校内又は学校間での格差がある。今後、より一層1人1台端末の利活用を進めていくためには、端末、通信ネットワーク、周辺環境等の整備に加え、教職員のICTを活用した指導力の向上が求められると考えている。また、不登校や障害、言語等の問題を抱えている児童生徒に対しても、利活用の方法を模索していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

1. 教育委員会が行う教職員向けのICT研修を設け、受講率を100%にすることに加え、教職員の理解度に合わせてICT支援員の協力体制を整備する。
2. 教育委員会が市内の教職員に複数の先行的な取り組みを推進し、その実践例をもとに次年度のICTの環境整備を進める。
3. 教職員向けにクラウドやAIの活用するための研修を実施し、共同編集や他者参照の学びを教職員が実際に体験し、AIを活用した個別最適な学び、協働的な学びを授業で行うことができるようにする。
4. 1人1台端末を活用し、心や体調の変化を早期発見する取組が広がりつつあります。本市においても、こうした動向を踏まえ、日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用できる体制を整備する。